

# ななかまど

一般社団法人 猿払ななかまどの会 会報

令和2年10月1日(木)

第27号

発行：一般社団法人

猿払ななかまどの会 事務局

ななかまどの会は障がい者の社会参加を応援しています。

障がいや発達の弱さの特徴を理解することが

## 共生社会を作る鍵



一雨ごとに秋が深まり冬の足音がだんだんと大きくなってきました。これからのシーズン、インフルエンザと新型コロナウイルスのダブルパンチが高齢者、基礎疾患持ちの私(事務局長)にとってガードを上げて防ぎたいと思っはいますが、症状が出ない人でもウィルスをまき散らす新型コロナは、誰が保菌者か分からず防ぎようがありません。三密を避ける、マスク着用換気、消毒の徹底を「新しい日常」として習慣化し乗り切りたいと考えています。

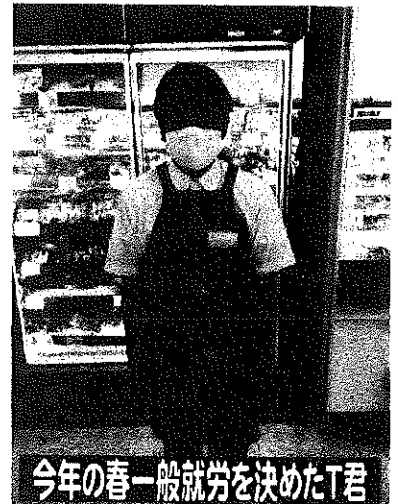
日頃より会の活動にご協力頂きまして心より感謝申し上げます。先月の「パンの注文販売」延べ11人の方に利用して頂きました。本当にありがとうございました。引き続きよろしくお願ひします。

さて、今月号では共生社会を築いていくための「鍵」となる「障がいや発達の弱さの特徴」の理解について取り上げてみます。

障がいの種類についてはこの会報の7月号で取り上げました。もう一度触れてみると、知的障がい(知恵遅れ)、情緒障がい、身体障がい、視覚障がい、聴覚障がい等は昔から知られています。最近、発達障がいや内部障がい(腎疾患や心疾患等)精神障がい等も増えてきました。

障がい種を一つ取り上げてみても人によって障がいの程度が様々ですから「障がいをまるごと理解すること」は大変難しいです。特に「知的障がい」や「情緒障がい」「発達障がい」は見ただ目ではなかなか判断できません。障がい者と接してみても初めての違いに気がつきます。

私がまだ新米教師のだった頃、情緒障がい(自閉症)の子どもを担当していました。こだわりが強くいくつかのルーティーンを持っていて、それを規制すると突然パニックを起こし大声で泣いたり暴れたりしました。中には自傷行為をする子もいました。「どうしてそうなるか？」よく分かりませんでした。自閉症というのは「そういうものだ」と理解し、ルーティーンを許容しながら少しずつ社会性を育てることに専念していました。それからしばらく障がい児教育を離れそろそろ退職が迫ってきたころ、再び特別支援学級と出会うことが出来ました。その時には若い頃には聞いたことも無かった「発達障がい」という概念ができていました。ADHDやアスペルガー症候群、高機能自閉症等々。勉強を進めると自閉症の特徴がおおよそ分かってきました。



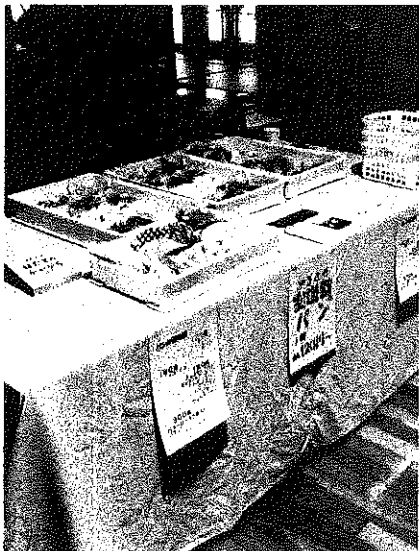
今年の春一般就労を決めたT君

自閉症の原因は分かりませんが、自閉症の人は他の人より「感覚が特に敏感だ」といえるそうです。それは音に対してだったり光に対してだったり視覚だったり。そしてその刺激が突然

予期しない形で襲いかかると、どう対応していいか分からなくなってパニックになるんだそうです。ですから、日程を明らかにするとか、予定をあらかじめ知らせておくとか、「突然の変化」を起こさないようにすると落ち着いて行動できるようになります。「こだわり」は突然の変化から身を守る安全策だったのです。

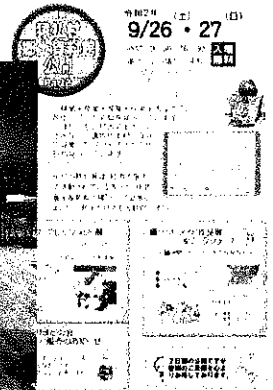
自閉症の例を上げましたが、でもこのようなことは多かれ少なかれ健常者も持っています。違いは程度の差なのです。このように障がいの特徴を理解すれば学校でも職場でも支援する環境はいくらでも整えられると思います。

「障がい者に住みよい社会は健常者にも住みよい。」のが共生社会ではないでしょうか



## 今年度初めての出店 9月26日(土)

コロナの影響でイベントの中止が相継ぐ中、今年度初めての出店を郷土資料館(浜猿小跡)の公開展に合わせて出させて頂きました。土日の日程でしたが、土曜日のうちにパンが完売してしまい1日だけの出店のとなりました。次の出店は11月7日8日の文化祭になります。



### パンの予約販売の状況

先月は11名の個人団体に利用して頂きました。ありがとうございます。

今度も火曜日までに注文を受けて金曜日の午後3時からお渡しあるいは配達をします。ご利用下さい。

また楽遊館でも金曜日午後3時からと土曜日の朝9時から店頭販売します。

店頭は販売は今月までで、11月からは注文販売のみにしたいと考えてます。

冬期間交通事情も変わってきますので...

## ひきこもり、猿払では？

先月稚内市で「ひきこもり」の実態調査を行い、15歳から64歳までで買い物など最低限の外出しがしない「広義のひきこもり」も含めた数は47人だったと報道されました。

厚生労働省の「ひきこもりの定義」では

「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせず、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態」を「ひきこもり」と呼んでいます。

「ひきこもり」は、単一の疾患や障害の概念ではなく、様々な要因が背景になって生じます。

この定義に当てはめると猿払村では「ひきこもり」はいないようです。しかし、新聞記事では「自室からほとんど出ない」ひきこもりだけでなく「広義のひきこもり」として、「自室から出るが家からは出ない。」「自分の趣味の際には外出する。」「コンビニなどには出かける。」と広げて調査したとしています。

ここまで広げると少なからず猿払村にもいそうです。人と接することが苦手なひきこもっているのですが、大事なのはその人へのケアや家族のケアです。これも共生社会の課題です。